

2020(令和2)年11月1日 古市に古代史と文学を歩く

梅花女子大 市瀬雅之先生

古市駅→(竹内街道)→白鳥陵→清寧天皇陵→峰ヶ塚古墳→野々上
(埴輪窯跡、横大路)→仁賢天皇陵→古市大溝→翠鳥園(すいちょうえん)遺跡公園



古市駅 はびきのガイドマップ



仁賢天皇
清寧天皇
日本武尊御陵参拝道



日本武尊 白鳥陵
(12代景行天皇皇子)
宮内庁治定 前方後円墳
墳丘長200m
後円部直径106m
前方部幅165m 古墳中期



白鳥陵の傍の住宅街で



白鳥は舞い上がり埴生野の丘を羽を曳くがごとく飛び立った一羽曳野市



軽羽迎神社の例祭?



第22代清寧天皇陵
河内坂門原陵
(白髪山古墳)
墳丘長115m後円部直径63m
前方部幅128m
前方部幅が後円部直径の2倍
6世紀前半

生まれつき
父の雄略天皇は
瑞祥と捉えて
大切にされた
ようです



峰塚公園



峰が塚古墳
前方後円墳全長96m 6世紀初
埴輪や装飾品を始め
多くの品が出土

峰が塚古墳



峰が塚古墳説明



霞立つ野の上の方に
行きしかば
うぐひす鳴きつ
春になるらし
丹比真人乙麻呂

卷8-1443

峰塚公園の歌碑



竹内街道



竹内街道 横大路(大道) (野々上三丁目) 太神宮 常夜灯
～難波から飛鳥へ日本最古の官道～ 道標 右大坂 左さかい?

17代履中天皇が大嘗祭のあとの宴会で寝てしまった。弟住吉仲皇子が反乱を起こし、難波宮に火を点けたので、臣下が酔った天皇を馬に乗せて逃げた。途中天皇は多遅比野(羽曳野市の丘陵地)で目を覚まされ「多遅比野に 寝むと知りせば 立つ薦も 持ちて来ましもの」と詠まれ、埴生坂(羽曳野市野々上)で難波宮をかえり見て「波瀾賦坂 我が立ち見れば かぎろひの 燃ゆる家群 妻が家のあたり」と詠まれた。その後、大和の石上神宮まで無事にたどり着かれた。



仁賢天皇埴生坂本陵

第24代仁賢天皇陵 埴生坂本陵(ボケ山古墳)前方後円墳
全長122m、高さ13m6世紀前半

古市大溝

古代の大規模な人口の水路の名残



翠鳥園遺跡公園

2万年前の石器づくりのアトリエ
二上山の周辺で採れるサヌカイトから作った先の鋭い道具等、石の破片が約2万点

